

クラス	TU304	担当教員	亀谷 和史
テーマ	「保育の専門性」の総合的探求—乳幼児の発達・保育カリキュラム・保育制度の視点から		
著書・論文 研究課題等	『「知的な育ち」を形成する保育実践』共編著（新読書社）2013年、『現代保育と子育て支援』亀谷和史編著（八千代出版）2008年、「アンリ・ワロンの発達研究の先駆性は何か？」（心理科学研究会編『心理科学』第35巻第1号所収 p.p. 11-20）2014年、「幼児保育のこれまでとこれから」（全生研編『生活指導』No.716.2014年10/11月号所収 p.p.48 - 51.）など。		
ゼミナール概要			
キーワード：乳幼児の発達、保育カリキュラム（保育課程）・保育実践、保育制度、幼保一元化、など			
目的、内容等： ◎このゼミでは、「保育の専門性」を深めるゼミです。「保育の専門性」を①乳幼児の発達の視点、②保育カリキュラム及び保育実践研究、③保育政策・制度の動向の検討、という3つの視点から総合的・複眼的に探求していきます。保育の専門性は、この3つのどれとも深く関わると考えるからです。 ○まず第1に、このゼミでは、特に、乳幼児期の認知・感情・人格等の発達の学習をします。特に、自我の発達や特定の人への愛着形成（あるいは愛着障害）、知的探究心などを学びます。 ・誕生からおよそ、3歳までの発達のプロセスを、感情、認識、自我などに、焦点をあてて、学習していきます。乳児が、どうして「わたし」ってわかるようになるか、を追究します。 ・幼児期は、3歳児・4歳児・5歳児と年齢別に、自我や認識の発達過程、その特徴を理解し、発達的な視点から保育実践の課題についても学習します。テキストは、大阪保育研究所編『シリーズ：年齢別保育』（ひとなる書房）などをコピーして使用します。 ○第2に保育者は、以上の発達の理解を踏まえて、保育カリキュラム（保育課程）のあるべき内容・方法に関して、実践記録を分析するなどして検討していきます。保育カリキュラムは、多様な内容と構造がありますが、どのようなねらいや学習効果があるのか、を多くの実践記録を読むことで探求していきます。テキストとしては、とりあえず『「知的な育ち」を形成する保育実践』（新読書社）2013年、を考えています。 ○第3に、2015年度から保育・幼児教育の制度改革が、「子ども・子育て支援新制度」として行われていきます。公的な保育所の設備や条件が充実していないと良い保育が行えません。そこで、今、課題となっている「認定こども園」や「幼保一体化」の政策に関しても学習していきます。保育士や幼稚園教諭の資格・免許に関しても、制度変更が始まっています。「幼保一元化」と「幼保一体化の違いや認定こども園の問題などについても学びます。待機児童をはじめ、さまざまな「保育問題」を取り上げて、皆さんと考えていきたいです。日ごろから保育・幼児教育の新聞記事を読む習慣をつけましょう。 ○以上を踏まえたうえで、各自、関心の持てる個別テーマで「保育の専門性」とは何か、について研究していきます。			
方法、授業計画等： ○毎回、あらかじめスケジュールを決めて、班（グループ）ごとに、上記の①、②、③のサブ・テーマを決めて、順番に学んだり調べたりした内容をプレゼンテーション（発表）します。 ○このゼミは、主に文献から学ぶ理論研究のゼミですが、サブ・テーマによっては、個人やグループで、保育園・幼稚園などに見学やフィールド調査も行います。 ○毎年、夏休みにゼミ合宿を行っています。（今から合宿代を貯めておいてください。）（2～3万円です。） （*ちなみに2012年度～2014年度は、横浜の安倍幼稚園、大阪のアトム・つばさ共同保育所、京都のたかつかさ保育園、岩滑認定こども園、かかわらまち夜間保育所などに見学・調査に行きました。） ○3年生の後期からそろそろ、各自の卒業研究のテーマを絞り込んでいきます。本格的には4年生になって、卒業研究に取り組みます。個人でテーマを決めて、専門演習Ⅱ論文（＝卒業論文）として執筆します。（分量は400字の原稿用紙50枚ぐらい＝最低1万字、標準2万字です。） ○4年生の専門演習Ⅱでは、全員、卒業研究が完成するように頑張ります。後輩のゼミ生を呼んで、公開で卒業研究発表会をします。可能であれば、製本して学習成果を残します。 ○テキストは、③に関しては、保育研究所編『保育白書2014年版』・『同2013年版』（ひとなる書房）を使用します。 ○ゼミは、担当教員のミニ・レクチャーと班（グループ）または個人で、毎回「研究」していきます。自分自身のテーマや問題関心をしっかりと、志望（エントリーシート）では書いてください。学ぶ意欲とやる気のある人は、ぜひ来てください。			
担当教員からのメッセージ			
上に併せて書きました。			